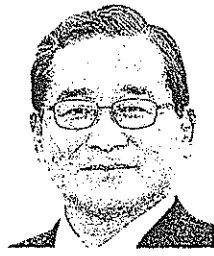


川内再稼働県議選前に同意

知事「争点化避けた」

鹿児島県の伊藤祐一郎知事の発言が波紋を呼んでいる。昨年十一月に九州電力川内原発（同県薩摩川内市）の再稼働に同意したのは、今月十二日投票の県議選での争点化を避けるためだったと明らかにしたためだ。地元住民からは民意を聞く機会を奪ったと批判も出ている。

批判高まる



伊藤祐一郎知事

伊藤知事は十五日の記者会見で「今も同意していないければ、単一の争点になっていた。県政はいろんな問題があるので、それを避けるべく十一月を選定した」と述べた。

宮崎公立大の有馬晋作教授（行政学）は「再稼働は住民の安心や安全に関わる最も考慮すべき課題で、県

議選は賛成、反対の民意を判断するのに適した機会だった。あえて争点化を避けたというのは妥当ではない」と指摘した。

地元住民らでつくる川内原発建設反対連絡協議会の鳥原良子会長は「県民の意思を聞くこととする姿勢が感じられず、県民をばかにしている」と批判。「知事の資質を疑う。争点隠しだ」と怒りをあらわにした。

鹿児島地裁では二十二日、川内原発の再稼働差し止めを求める仮処分判断

が下される。鳥原会長は十四日の福井地裁同様、差し止めを命じる決定が出るこ

とに期待を寄せる。

昨年十一月の県議会で、再稼働に反対した遠嶋春日^{はるひ}、児島議は今回の県議選で落選。任期は二十九日までだが、「選挙で民意を問うのは極めて重要なのに争点にさせないのはおかしい。県民の命を軽視している」と憤った。

知事の発言に理解を示す

声もある。議会で賛成した自民党の中堅県議は「経済の活性化や一次産業の育成など課題は山積みだ。再稼働だけが争点ではなかった」と話す。

薩摩川内市ホテル旅館組合の福山大作組合長は「知事の発言に言及できる立場にないが、一刻も早い再稼働を願っている」と語った。

4/17
県民福井